

北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.8+5)/2=4.9$

4.9

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額等	118%	5
2	企業と一次産業との連携プロジェクト数	100%	5
3	機能性素材の新規研究開発プロジェクト数	97%	4
4	輸出に必要な国際認証・登録等数	225%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 3 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 4 = 4.8$

4.8

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

5.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3+4.3+5)/3=4.1$

4.1

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

5.0

- ・高い水準の目標と同等あるいはそれ以上の成果を上げることができており、独自の表示制度、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの活用などの成果も高く評価される。
- ・事業体と行政の取り組みが良く同期して成果をあげている。
- ・既存の規制の特例措置以外に国内外への輸送の面で障壁となっているものがないか、新たな規制緩和の提案をぜひ検討してもらいたい。
- ・東アジア地域でも認知度の高い、「北海道」の優れたブランドイメージを活かすために、販売促進のための輸出ルートの開拓を国際戦略として行うべきである。現状では、国際輸送の手段の多くを東京に依存しており、東京のキャパシティの中でしか輸出できていない。道内を含めた他の港湾を使用するなどの代替手段を検討すべき。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

5.0

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.9+4.1+5 \times 2) \div 4=4.8$

4.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。